KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

遠一
門
弗658
巻4

嘆分子人媳

第一

同孫

四之巻

明治三十六年九月十一日購求

南方三島ハ一名ぢゃ中と國言と國分ち
ゆきの人ちゃけきが樹し茂ちるの屋
信村の為ちにおちとちよんとかるこれ鮫つを
方丈の厨庫裏眠花りう立る遠よの結籍

才二

涙の雨ハ古茅屋の涙いかゞ云仍来
おもかゝる親よりをゆせね二歳むとめ
咲分のゐい師匠新南多注さ才子の袴
明て悔い時が玉ゝ弟子のゝ親子れろ

才二

粉毋茶人の親よりい豪を云仁茶
物ゝ云用金人を和げい名に別さ一徳
聲といそれて男を男に云くゆる於云又
方便の示ゐ乃程眼でをいさ粹乃眼

一

湯ゝ三郎ハ一日ゐちゝ威云と岡分寺
金紙おゐもうても。浮田金よへつゝひ程べきを云ゐ。ゐ月
云て後ひて桜月よ津ゝ、のゞ。渦汐と汲ゐ。月ゐそゐ
信ゝ。をまゝのゝ敏ゐゝとめゝて。ゆ男ハ浮ゐんゐのゝを
ゐの。ゐ。ゐハ杜川ゐそ細新ゐ。小新ゆゝとの新候をゐそ
ゐゝび。秋ハ月をゐゝ。石地の羊を注者ゐて。まゝゐれゐ
年貢納めの後合のかハ。小可ひゐゐ。ゐ。ゐ新ゝ
ゐゐ注男。冬ハ囲炉裏より生本をゐゝ。尻れゐい茶羅と
月ゐハゐの。ゝ。ゐ。ゐの茶茶ゐのゝ。ゐをゐかハ。ゐ。ゐ
きゝ。ゐのゝ。ゐ。ゐ。ゐ

はせ寄る長和そ徳ゆ破損そかちるの人用に一村くに後とむとびく
抑孫海てちの人めとひつぐひろ。面白い帝海の男寄そ新行無
後の徳ろくいろ必知ちし居らしべきの傍ろし代。ねねみて悔く
ひちるとあづろ長和あらひいに才ろの系無。納布坊主の面会にあ
てづひ。せろとお抜つひに仏間ろ元ろ。ひしまていまでかろろ。
今日に九世戸の久弥、寄言に系行みて抜三人ぐ下白色わかさ
さに行れの当ちとのんぐ。ろ仕奉さ元屋の二ねろ。ねに才系
ひ系のおこそかれて面りのとひそれ考元ささひて。外
方まぐ系ねの娘乙女に一抜ゆしべ正月よ。ぬとひろ。行れの当ちのろ
元ぬとかりてよみぐろことけどゆ。れあまろも。情づろろとみ抜ぐ元抜
にゆて正ろうわろびに会ろにおさ海き願で色。ゆ才ろの系
無にろれぐし師の行式とろるび。青ろ仏垣ろ白ひ星代と行ひ

かろ不実のあわろ事とちるび納布の面会坊に欲の抜こ海抜。
ちろも一盃なるかぶ海ろめふき。寄ぐに人ろ世ろて小弦とちる海
ひ。ろろく人にろこ欲ぐ一世とわ。ろまりゆろ世に系。外ちまぐ日
寄ゆの抜おろに元全ゆの人業平とつ代ぐて抜ろ系と出て。全
育一抜ゆとべきれるく。納布坊主のろ面会と門と呼ぶ。ゆろに抜ひかろ
の方ろ大夜に行ろしぐ。今寄の海ろ系ろ。この新ちろゆ元一
抜ろろて抜し。ろ抜行包でひろに納に。抜ゆ世に。欲ろ系ろの考
ろき。結ろ抜の半坊坊。抜行ろゆぐ一ろ者のこ。ゆろ白に手沢と
ぬろと抜納ぬ、元世ろ面ぬ。代抜ろ系海ぬぐりに。世戸ろ抜て入て
下面ゆ白ぐ。ろて抜ろ丸ろ行ゆひ。金芸ろく抜代。外ちまぐ日
ゆつひひむぐきゆろとお系ぐ。ぬ代ろ。ぬろて使ひ抜ろに元ろ白
ぐ。ひとれまとつとてゆ白抜ろと新抜元ろ。納布の面会ぐ見ぬ。

このまわりをたくさんきてゐる方へゆくと。利生丸と夜のすそをひく
のくさんぢんぢやくやくかうしぢ。墓守の男よ墓門をひらきそちは
入りけり。行れい奥にとり火のれいとしてあるあり神ゆり。山井たま先へ
ゆつて。食後せんさうまつしびつうちうしびすまの糸巻をれさ。
ひそうふれるとゆきまくど。いのあやせんあんがけうひのようとさうしぢ。墓
守ゆくさやさもひ。利生丸とを後ゆて。ぢ墓門へ入きひぢく
ゆて内仏壇にはのとあげ。勤行よかうは後ぐるあうこそうあうう
うしぢ。彼にのくうかうこ行ゆれるのうれうにゆれ。やぢ後ろ音
ゆて安堵し。面白いれるうぢぬるそぢろく入りこ。仏壇を後ろこや
ら。最初ちい為うごきもやしなどうとうにうてかううしぢ。抜ぬきい
ゆうひはとぢ行ろうろうぞちこうあうをおてあうあ。云まめがうてぬい。
四度ろうこうあがこのまれうるれまうるゆきううぢとうらうて矢

ぬ

ぬやりはまぢしはぢうろうこいに会れうこおうろの利生丸よ抜まう。
結接ぬ山庭ろうあげてゆくどこうも迫うけあうらそたりあ、はは
一度の鉄壁にあうくんと。七すうあ人の山井たま脱ぬ脚結よ大後の
内の中ゆ中。滅今の行さしのあしてしてぢ。ぢ命のうれ家あ人ろ引つま
てろくの新家の表くらを抜て羊かゆうあ男よい色抜ぬうあ
あげのびいせは。ぢやくいいあ分ぢぢ。見出云の和高うしいぢくまいの
らうこ来ちうべーこのさうしの大門をまるうこふたくき。彩くしてよ
ゆうくよづしいぢあ敵よ行ぬこうてあるのうこ行ぢ。ぢ肝とはぢ。ぢ後
負めくこれ制抜ぢとぢのよ配人度この行ぢ仏ぢうう我くしは寺
いそてんがしてあそぢてはやメ行ぢさしぢ。ぢ保のうあ大男ぢ抜し
ものうんぢうやりうしうあ中に出うはこて抜ぢうさうぢ。ぢ中の
抜抜ぢんくいれあつぢて。後へ入ぢ中へちくぢあぢう火行ぢ我ぢあと

庫裡方よの掛け下へ、ぶげうくれうくんでおうちあそあ〜けき。西会ゞ紙
屋よいおうつ表花とうぐでぷ。表と一表〜おうちゞうのうちゑ中ニ
ゑ外方実用ニ京あいゝしく赤ゑ。西会おゞうきうゑく往ていう
まう紙ゞうぷ。あうこの赤あと金張のうあ。おやぢうこの京文ぷ物さゝ
つゝいぷ〜ぐさ人間の表いもうゝうよめて赤〜ゞ〜ぐうゝ行〜ゞ。
あうとうと〜ゞぐ屋表ゞ。一番いさゝいうまうと青の西ゑまゝ奥も
さあ。動顔ずゝいぷ。おうゞ京ゝもうゝ。ゝうゞ。ゝうゞ。ゝうゞ。ゝうゞ。
紫紙屋〜めゝかゝて行〜ゞ。おゞ〜とゝ行ゞいゝうてゝうゝ。
い表文ゑうゝ。紫紙屋ゑゞい一番ゝうゞさゞ。ぷ手意ゑゑいゝ
行〜ゞ行てゞ〜ゞうゝゑ人ゞうめゝいゝゑゞ。おうゞゝゝ。
いゞぷゝうゞぷ。ぷうゑいゝ中ゞ京ゑ。西照坊ゝ。ゑ〜ゝゞ。ゝ入番
ゝ。ゝ。ゝ。

実家の方へ行きてそこ方へとゆきくれてなどいねるつりあ
まれてうしてをるべきやうもなくて只尽すべきなりしてあ
ばとうけてくれるまでみたくれば俗納所をそうへゆくねやさず
といへばこゝろうづとうこゝろ和尚すべてあるまいくるこ
ゝろをもつかまつり庫裏方へ出かけてせんさくと
する。戸棚や天井のそこらあたりまよいかれ。柳橋のひくれ。ハテ
是程のちがれべちがそこらのくりめ是程の和尚こゝらめた
くゝ見ぬ繰りてさがしてさがしてさがして遠方まへ廻りす
よいまの功のさまるゝ問答の内をたゝそこりやまあこれい方へ
入らるゆゝんする。尚るの人ばいい和尚の子同宿新発意納所。
入るものをして上下上下三人そしはは上をのぞきあの方へ合点
ゆゝんで。おちたゆゝ業腹中。座中ハ人ゝ和尚けゝ家を先徳の

下かゝるそこ入ゝ下人共ゝ方ゝ指よりはぐれ。おゝ
ある座庫裏方へ紫紛屋味噌紛屋裏ゝ入ゝ指ゝ俗ゝ人

(二) 源の五郎つら座の源いおゝぐひ紛米

伝ゝみの郎といそ人を害せんとゝう上てゆゝ郎とゆゝがおく。射ゝ先ゝ指し
出さんと。我ゝ行ゝたのゝ出れのゝるゝ寺ゝ入ゝ。下人ゝ下ゝ知ゝて座程眠ゝ元の座の
下ゝかりあせゝ入ゝゝゝの賢切ゝ強ゝ入ゝ入ゝ這ゝ入ゝ。
やゝそこゝ板ゝの木村ゝ木ゝ板ゝ入ゝ。ゝ。ゝ。

まれの始めなるべくこれあるべくこれ
そのしるしとまりて五分ばかり面白
といらけ和尚をみんで五本中の
でもなく和尚と海を合ようへを
みさるべく人信をかる仕業ぱ信
の中ら面白奏てあるべてんでくして
冊法の変化人口五ものの
坊主とこのごとくてこの
信者の長ものとつぶ門外堅牢
を乗く樹て又ものひつれ
牢の変とよびつけ長信いけ
のざるぶ海の中に大きの中

きの品と変ぱ傳奏ぱ
より師牢の間とかて
ものざるぶ信奏ものの
ねよりて面白と失てるぶ
和尚する町人海ぶ和
五ものを集て仏方
和尚しぱ海ものと
ものき仕合衣とぶ
ぶ人の間ぱ青仕
衣ものぶ及ぶ
めやまりいはそ
らとれ和しぱ出

えて母のかしらにくくりつけ
すぎやんぐーとうたうまねをする。ぐぐ。ぱぱ。おかあはは。
てをあげてぷらぷらぷりぷりして。ぎゃあ。ぎゃあ。
あかぼうをかかえる。金太郎。ぷらぷらおてて出て。
へまちがひなくぱっとうれて。意とたくさんさらに。ぱっぱ。
中。ぱっぱつらつとかれば。あかぼうのぐぐまちがつて。ぱぱ。絵ものぐ
こかぷ。ぱぱと。師匠の図。ぱぱと。近くかくぱぱちの。ぱぱ。ぱぱ。
の色。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。師匠。師匠。師匠。師匠。師匠。
ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。
らのぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。ぱぱ。

出ると見て。三郎は化粧がをさしの方まもわされんそ。はるぶさたん
くくりぶまおんがを敷と宛のわくらんを。三郎と臣。コレ三郎刃は
眼見ちぐいはなんの娘のかなよ絵れいないとんてさぶもちをみんてこう。
地で奥引めは幼の奴おこと。麗はとつてこうんてそ。婦の三行ぶ
めとけいこうそて炭ぐ〇わそ。ほりを入てぬておつてこと細戸ろげをそのち
幼て拾ようとて二行まめはかぶじて。焼子の手し加戸垣白だやうか
絵ぶ炭ぐ〇の拾ろて焦めけてみてゆ。肝ぐづれて表の中盛とを係
せいぶいづくわげさう形ぶ見ぬ。今又出づらの中るは。拾いはとれ事と
ちふおぶふうれそこれ。ぶのてようは娘のおんめ。貴の行まめがくと
同ぶう。兵弟めも戸はをいそ娘ようぬそ。ぶ大まよ絶ます拾けぶうや
そそ戸はのひいんれぶまくこの口をとれ弟ぶめそ出すと。絶ぶて三ぶ礼を
て。娘ぐ新ぶ。ほとれ業。程をうて。ぶてあるさうるて。ぶてぶ。ぶそあるうかな。

三郎は無まいんあるこ事ろ部のぶどかぐておんがは小脇ぶ拾ぐ。ぶ
弟あいぶ兵弟をよいはれつをぶの兵教をかぐされぶのまれてはちをつれ
て来て。二人をかかんて拾れいちびかぶ。るこのいるぐれ訳又
どのく効がをかいいて母ビ。ぶ弟まめとはどやめ拾ぶどうんあぐ
せをうれそまふれて印状わし。祝の若とはけるるをやまるとぐて
いんれとおんのをつうをひをれたぶをうきあまるれいぐうとい
私いぶ弟ぐるみそいぶんぐんもあるんとあをいうんいぐそんなる
行ぶいはちいうんて来いあるるでをとれて伏いいぐるく注て
あるうあいは。実いあんぐ新屋の戸細ようぬけて。ぶるのうの
の拾をとんてあるうぐ。おんるぐ。新後と我ゆをとんるて脇せを
度実いおぶ三郎をつをのけおんるをとうろへぶあはせをよいん牙
あるをよ男のあるおをるぐあるて。ぶるるをいんるの新紙をは

ひとりの男がそれぞれに新版の本をもって冊版の絵付よ物語を読ん
でいるのを見ていたこの人は二世の約束と題した二世の約束と題した
みわたしたる法師の姿を見て月の輝いているのを見て同じ
さるほどにおもしろくおかしく笑ひたるなり
えのてをしたのこころのうちに職人ずくに出合怪我をしてい第一歌で
のいひやみはてざるうちにあちらにたまたまの長者ちゃう納所の人を
れ〳〵和尚さまでは新屋に出びめ〳〵しいぞひとりぼもとのくれけり。
男のこれ金銭をとり廃毛をもってかぶりとりさとあれば四五石つかい
ろく〳〵寺よりとりかえるのはなかとやかくおよろこぶとろ
うへ新宅のなかにるさんねとそもそもかいのがれぬ　あのかたをなれ
ちをとりてはさぶんとるとそこうふたりへ出ぬ　ちゃうもんさくたでもろ
ぐ〳〵和尚様はれいかるべかりけるのよ法とぞ。

ちとなる旨あれば。たうさ仕様でへ行るはこ新文れのれくらを嘗
しうれつろひて行れトされしぺ人をつあさ一海よりへ人よ角れし
様のうへ世をとろる四人を考て一のこれてはされて上をとへ人ぺこ
命へ河よのをれ命れまるとぐくを命と知てぺくいて命んとんどきつき。
東ぐ〳〵来とまるをみてのこころみうるぞあきろうれ

三　初毋茂人の河よりーいろとろ東

ナ家経ろくて分有いのうるた法い新たとたどろ人を新遍を
出ーつて来さ東が名ろんで世にれいて命か。毋物男るこ命と
人をとて一見ろくちこ世いて。日命よりへべつろして。後よこ命
河をちをぺいるるれれて人へべ新文でのよるれてこんぐ。のとろをと
るれ。ぺるれのれ世しは方へ法ーるさるにぺぐひいるいると根と
おさい。拝者まるこぐ欠来ぺし。命ぐ〳〵れれもろ〳〵ねた。男毋と

ものて金伝てさいぺのくぐさのゆうにあメつてどいちれさうなわと
ねるのくれ法わりくゆくのるにいもたぐもつひぬるにゆまれて
世ものにるくと智ものでるけまいまつねるぬ基に作付れるべ細工い
流く仕とのよぎとおちにうけるて。智ものりに係ていひそれぺ。高
いよく合点てぬと沢文れけ人のりめとけ今なされるぬいかさる
にまわくとりてべ巣のされよりても行ふかるるぬ和紙るる
世分よけ金張ふ和くみさしていぺでわんとるるべ。月たも高
おるけてカそれよるくいゆりどあの男よこのひぐと。重法よ西ひ
今いるるく色るに高まりと。今色本中に人実体てるおさ仕るべ姫
のかりるとまるせ方まうて舞とて。嫁入の外面にして高こ田島
流てまるせん。巳因今はしの御家にわぐるるちびひ高るる伝のくい
ロさんぐるそよりとひ。高えのぐしのるくよひて法とあるるぐ

わ高さるりくくりさうに仕るるるく。と和中いるあて法さる。屋云で
なりていわ文かけさいるるいゆくよるるくいはるるぐあるるるひつめそか
きべ旦い類公とけるとるよりそ巳されるくとるるぐとゆさんぐ
東次公地るくぺ。ゆの高人寄和よ沢よるる利をるそしせいるぐ下
扱ぐゆけぐ。頁てくるぜまるく。和ちる云と高ひわくするるとるぬ田
今人和智いあ仕ぐざる中是ぬ不のるい。ゆとるるる沢文るれべち
とりそるかづさ。ゆわぐ屋云りさぬ法和よいかるの色和文を
高りさん地で和文いて屋文の二るるそ。頂法いは仕るるるてあとた
らとぐ高実いて。和ぬ我と高て文ものるる。今和とるる色
りに。鉄のくるるる世智るがとい地高るるぐ。揚さるるゆるて血判を
祈ぐ、和ひのそい牛王の鳥の目の示を塗て洗ぐけ。あに和姫
まぜて裏より呪るるそ。科るるさるへのるるく和文といちびひ。品々

ゑる不の形ゑハ和四家内旅不の冠者ゑのと浦人ハ三て毎年十
月皆切ゑ三て拾ゑの拾ゑ三て毎ゑ太切ゑ拾ゑ四ゑ三ゑ
ゑりやさ四ゑのく、寿わんとゑ三ゑ三ゑ三ゑ三て盛門仏壇ゑ拾湯
杖を三ゑ毎ゑ三ゑ三ゑ三ゑ拾ゑ三ゑ三て湯杖ゑ三ゑ三ゑ三

ぬけ出て、そひとりぬけ出て、いよく
射を丸と板つきしに、ゆくが、伝合、和代の和ゆゑゆゑと大海をいくず
るゆゑ、辛労とする事、あれば、ゆゑ、度の知恵をもて、ゆゑ、あて、活つれて。
八丁、舞のゆゑ、ふいてさえ、用わべ、下人たちを、恵るくつひとれ、我
くいを、ゆゑ、いろ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ

ゑさづらとえんおてあてゝ
すると法の師の長も及ばぬ
おすゝと婦妻いかれて
魚船坊、えんらわるうづらの
山師先れいひそうにおわびひ
ゝ流いてきゝと法あつて。
合ての計略と。富とたゞもどいひ
月とえん合せて。
妻かさのてゝゆうのうにそ
ちやひゆうゝこのづられ中と
山外左衛門にいたゝ
ゆんうとあゞ。

あづくんと私と子孫とゝひ。
判者は、出入の所人指ゆうづらの
考くゝめ。
ゑ屋。今色にて
はあくめとひそそにせ。
ゞ射まれて海せ
めて伽ら屋と。
射まるうしべは
とゝ。氏之の電妻のゝ
木下陸国分ちくい。
人の子ゝくめそそ
しゆゝきくゝ

こそ破損とゝびゝあるを無ゝ無ゝ者ゝ不ゝ可ゝ改ゝ氏ゝ遊
ゝ去ゝいゝなゝおゝ又ゝ大ゝ江ゝ戸ゝ屋ゝ敷ゝ付ゝ屋ゝ敷ゝの ゝ内ゝ強ゝ勢ゝ。ゝ内ゝ無ゝ不
ゝ口ゝ又ゝ牙ゝの ゝ子ゝ達ゝ。ゝ関ゝ西ゝ ゝ国ゝ ゝ ゝ妹ゝの ゝ様ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ